

四中の文化的な面が発揮され、有意義な図書館行事となりました

第10回「ビブリオバトル in 四中」開催 7月4日(月)

荒川区では、平成30年5月の「読書を愛するまち・あらかわ」宣言に基づき、子どもたちの豊かな心を育むため、子どもたちが素敵な本と出会い、読書の大切さや楽しさを実感できるよう、読書活動を推進しています。昨年度からは、子どもたちはもちろん、保護者も含め家族みんなで読書に親しんでいただくこと、「家読(うちどく)」事業を推進しています。四中としても、『授業活用や読書啓発活動により、学校図書館活用を推進することで、学習意欲の向上を図る』を、学校経営方針の5つの柱の一つに掲げ、本に触れる機会の充実を図っています。

本校では年に2回、読書に関わる取り組みを毎年行っています。1学期は6月27日から7月1日までを「あじさい読書週間」と称して、実施しました。そして、週明けの7月4日(月)の放課後、恒例の「ビブリオバトル in 四中」を開催しました。「ビブリオバトル(書評合戦)」とは、“バトル”と呼ばれる発表者が自分のおすすめの本を紹介、それを聞いている会場の観覧者“オーディエンス”が一番読みたいと思った本に投票し“チャンプ本”を決めるというイベントです。四中としては平成29年から毎年2回開催、今回が通算10回目となります。

会場となった学校図書館には、生徒や先生方が集まり、5名の発表者(バトル)による熱い戦いが繰り広げられました。どのバトルも、紹介する本の選書もさることながら、その本の魅力が聴衆に伝わるように工夫した語りも味があり、それぞれの本に興味を湧きました。その結果、稲葉さんが紹介した「夜が明けたらいちばんに君に会いにいく」が見事、チャンプ本に選ばれました。おめでとうございます。



発表順	発表者	著書名	著者	出版社
1	小林 穂 (3-A)	火星に住むつもりです	村木風海	光文社
2	稲葉 祐大 (3-B)	夜が明けたらいちばんに君に会いにいく	汐見夏樹	スターツ出版
3	富江 菜々子(3-B)	ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。	石井光太	ポプラ社
4	小野田 智 (3-C)	delete	本多孝好	KADOKAWA
5	細谷 琉晴 (3-A)	あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。	汐見夏樹	スターツ出版

こうした機会を通して、読書や発表活動に興味や関心を持つきっかけになってくれるといいなと思います。四中の文化的な面が発揮され、有意義な図書館行事となりました。